

スマイル

ら

う

ひ

こ



特集

誠実な医療を心掛けて

エキスパートナース⑨／連携医療機関紹介 vol.9／CEのつぶやき⑨／
Information／副院長のひとり言④

誠実な医療を心掛けて

7月より徳田貴則医師が赴任し待望の心臓血管外科が再開しました。4ヶ月が経過し、少し当院にも慣れてこられたと思われる先生にインタビューをしました。気軽にご自身のことや当院の印象、また当院での今後の展望を語っていただきました。

Q自己紹介をしてください。

A徳田貴則（とくだたかのり）、1977年4月21日生まれ37歳です。血液型はA型で、星座はおうし座、動物占いはコアラです。どんなのかはわからないけど。（笑）

Q先生の専門は何ですか。

A成人の心臓血管外科領域です。

Q心臓血管外科は手術をしますが、得意な手術はありますか。

A以前は好きではなかったけど、冠動脈バイパス手術が好きです。

Q当院に来られる前はどちらにいましたか。

Aインドネシアのハラパンキタ病院という、向こうの国立循環器病センターみたいな病院に2年間いました。

Qなぜインドネシアに行くことになったのですか。

A研修医の頃から漠然と思っていたのですが、心臓血管外科医としてやっていくには手術をたくさんやれる環境に行きたい、と。

僕は岡山大学卒業なのですが、5回生の時の臨床実習で、最初に行ったのが心臓血管外科でした。当時小児心臓血管外科領域では佐野俊二教授を中心として、そこでしか行えない手術が行われていました。成人領域の手術も併せて年間500症例以上行われていて、それを見て「心臓血管外科ってかっこいいやん」って単純に思いました。それがきっかけで心臓血管外科を目指しました。「いやあ、若かったなあ」といろんな意味で思います。

卒業後医師になり臨床研修で上級医の先生に付いて経験を積んでいくわけですが、自分

以外にもたくさんの医師がいる中で多くの症例を経験するのは難しく、「次のチャンスはいつ回ってくるんだ？」と、いつも思いながら日々仕事をしていました。

自分が感じるに、その頃の心臓血管外科の先生で手術の上手いと言われている先生方は大抵海外で修業を積んできた人ばかりで、若手の心臓血管外科医が手術経験を積むには、日本は症例数が多く望めないというのが現実でした。ちょうどその頃野球では野茂やイチローが海外で活躍し、サッカーでは中田英寿が海外で活躍していた時期で、恥ずかしいですがそれを自分に投影するように、いつしか自分も海外で！と思うようになっていました。いつか機会があれば「海外で研修するから」と、結婚する前から妻にもそう言ってました。インドネシアを選んだ理由がないのですが、自分の以前の上司が紹介してくれたのです。「徳田にはきっと合う場所だと思う。」と。なんのことも、よくわかりませんでした。が、なんか合うような気がして、「とりあえず行こう。」と思って行きました。

Qインドネシア・ハラパンキタ病院は年間では多くの症例を経験することができましたか。

Aインドネシアは世界で4番目に人口が多くて2億4千万人います。でもまともに心臓の手術ができる施設は、ほぼそこだけなので毎日たくさん手術をしています。

最初は言葉の問題もありコミュニケーションがうまくとれないときは、どんな手技ができるのか確認されながらやりましたが、慣れてくると少しずつ任せてくれるようになりました。言葉の問題が解決してくるにつれてどんどん任せてくれるようになり、毎日1、2例は執刀させてもらっていました。手術経験が得られたことはもちろんありがたかったのですが、インドネシアという国は本当に自分に合っていました。

日本の若手外科医というのは、教育という名の結構な“パワーハラスメント”の中で成長させられる、もしくはそれに打ち勝たなければ成長できないような部分が、ぶっちゃけ多々あります。自分もある時期は家に帰るたびに、妻と息子（当時は赤ん坊）に泣きながら愚痴り、次の手術なんぞなければいい、



と願っていた時期もありました。手術場でもそれ以外でも、いつも、叱られるからです。

しかしインドネシアに行き、もちろん現地の文化なども多少勉強して生活していましたが、2年間住んでいて、たったの1回も手術中に怒られたことはありませんでした。向こうの文化で、多くの人前で一人の人をなじる、というのは逆恨みされて殺されてしまうのではないくらいに良くないことだそうです。そういうのもあったのかもしれませんが。またある日、僕が結構なミスをしてしまった日があり、それを見ていたボスが「どうした、タカノリ〜。そんなミスをするなんて〜。お前、今日はお祈りが足りないんじゃないのか（彼らはイスラム教、お祈りは一日5回!）。ん？そうか、お前ら日本人の宗教はシントウだったな。シントウも祈ったほうがいいぞ。ワハハ。」と言いながら、その部分をうまく直してくださいました。感情的に怒鳴られたり、怒られるということが全くなく、そのあたりのストレスは全くありませんでした。もちろん“怒らないから教えていない”などということはなく、インドネシアの2年間で数多くの知識を得ました。

辛い食べ物が多く（サンバルが今でも恋しい♡）、年がら年中暖かく（冬は日本に帰りたいなくなる）、美人が多い（タイやベトナムともちょっと違うのです）インドネシア、国も人も大好きになりましたし、「そんなに毎日怒られながら、嫌な気分仕事や勉強をしなければいけないだろうか？」という日本にいた時の疑問にもはっきりと答えができました。

Q 向こうではどういう手術が多かったのですか。

A 近年著しく経済成長を遂げている国ですが、GDPでいうとまだ“中進国”入りをした程度の国で、もちろん生水は飲めないし、衛生的には一般の日本人には眼を覆うような部分が多々見受けられます。そのため、近年日本ではほぼ見かけなくなったリュウマチ性の“僧房弁狭窄症”などがまだ多くありますし、検査なども行き届いていないので日本では小児期にほぼ治療されてしまう心房中核欠損なども大人の症例として結構ありました。現在日本ではそのような基本的な症例はほぼ無く、そういった症例に数多く当たれたのは貴重です。またそんな中でもボスたちはオフポンプCABGや、小開胸手術など最新の治療に目を向け、そのあたりも多数経験することができました。

Q 当院にくることになったきっかけはなんだったのでしょうか。

A “縁”としか言えないです。ジャカルタで2年近くなった時に、これからどうしようかな、と思い始めました。インドネシア生活は幸せでしたが、給料がなく、家の貯金が減ってきて、これはヤバくなってきているので（笑）。単身で行っていたし、日本での家族の生活もあったので、ぼちぼち帰らなアカンなあと考え始めていました。業者を通じて就職先を探していました。そんな中、野原先生が心臓血管外科医を探していることを知りました。そこは循環器内科を中心にやっている病院ということで、場所はなんと叔母の家があって昔からよく知っている大阪府枚方市。自分は医局にも所属してないし、一人でも受け入れてくれるならお願いしたい、とお話したところ、良い返事をいただけたので就職しました。

Q 先ほど給料がないと言われましたが、1ヶ月どれくらいもらえるのでしょうか。

A 僕はフェローという立場で、よその国なら“それなりに貰えてた”とか、“なんとか生きていけた”くらい給料が出るらしいのですが、インドネシアでは公式にはゼロでした。ボス達が、研修医とフェローのためにと出し合ってくれている基金みたいなのがあって、そこから月に75万ルピア貰ってました…日本円で7,500円くらいです。僕はわりと酒飲みなので、一回日本人居酒屋に行ってしまうと、そのお金はすっかり消えていました…（笑）

Q 当院の印象はどうか。

A いい意味でみんな真面目です。南河内生まれの自分してみれば（申し訳ない、南河内の人）、枚方近辺の人は品が良いです。祖母が枚方に住んでいたのですが、祖母を見てもそう思いました。患者さんも良いです。声を荒げているところなんて見たことないし。僕の方が荒げてるくらいです。（笑）患者さんはみなさん前向きに治療していこうと思っていて、僕らの声に耳を傾けてくれます。心臓の手術は、いまだにいくらちゃんとやってもへたをすると術中死があり得る手術です。合併症としてお伝えする少ない確率に、「まさか自分が」と考える気楽な方ももしかしたらおられるかもしれませんが、多くの方が例え1%といえども、手術で死んでしまうかもしれないと言われ、恐怖を覚えるはずで「先生にお任せします」と腹をくくって



治療に参加してくれる患者さんが多く、医療を施行する側としても励みになります。患者さんはもちろん、医師だって人間ですから、信じられて頼られると頑張ろうと思えるわけです。

また当院は循環器内科の先生方が協力してくださるので非常にありがたいです。術後管理に難渋する患者さんにも、内科の先生と一緒に見てくださって良くなっていきます。

Q 今後当院でやっていきたいことは何ですか。

A 現在は心臓血管外科の医師が僕一人で、定期的手術日に他の医療機関の先生に手伝ってもらっている状況です。12月1日から村中医師が帰って来られ、もう少しアクティビティが上がるかと思いますが、緊急手術などをまともにやっていこうとなると少なくとも3人は欲しいところです。ただ焦ってもしょうがないので、今は少しずつできることからやっていこうと思っています。時間をかけて体制を整え、小さなことから誠実にやっていけば、そのころには自ずと実績も伴ってくると思います。

Q 最後に近隣の医療機関の先生方に一言お願いします。

A 7月に赴任し、当院で楽しく仕事ができております。現在15例程度の心臓、大血管手術と20例程度の末梢血管手術を終え、皆さん元気に退院されました。成人心臓血管外科領域の患者さんがいらしたら気軽に相談していただければと思います。今後ともよろしくお願いします。



心臓血管外科 医長
徳田 貴則

エキスパートズ

9

病院では、様々な専門職種が連携し、協力し合って医療を提供しています。そうした医療チームの中で一番の大所帯は、間違いなく看護部です。

このコーナーでは、そんな看護師の活動やニュースを主に取り扱っています。

看護とは、一体何でしょうか。

『看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最期まで、その人らしく生を全うできるように援助を行うことを目的としている。』これは、看護者の倫理綱領・前文に記された言葉です。看護の対象となるもの、看護の本質についての問いかけに、過不足なく解答するものです。しかしながら、文章にしてしまうと少々仰々しく堅苦しいもののような印象になってしまう感は否めません。この『看護は』という一文を紐解く、ちょっとした日常の風景を、当院4階西病棟の取り組みの中から連載して紹介する第2弾です。

秋から冬にかけて気温が低くなると、体温を維持しようという生体反応から、鼻や喉・気管といった外気に触れる粘膜の血管が収縮し乾燥します。空気に交じって飛び交うウイルスや菌を体外に追い出す役割をしてくれている線毛と呼ばれるものの動きも鈍くなり、必然的に空気感染を起こす感染症に掛り易くなることとなります。対応策としては、繊毛運動がスムーズになるよう加湿することと、室内の換気を行い、ウイルスや菌類を蔓延させないこと、手洗いうがいを励行して感染を起こさないことです。

高齢者では、こうした季節性の上気道感染よりも、誤嚥性の肺炎が年間を通して多く起こりがちです。加齢による免疫機能の低下、嚥下機能の低下や、誤嚥なく食事を摂取できる姿勢を体力的な問題で保てないこと、昼夜逆転を起こして食事時間に傾眠してしまっ

ていること、認知機能の低下により口腔衛生をうまく保てなくなっていることなど、高齢者が誤嚥性肺炎を起こす原因はさまざまです。別の疾病で体力の低下・食欲不振を起こし入院してきた患者さんが、その治療を行っている最中に、誤嚥性肺炎を併発することもあります。一方で、認知機能の低下から『食べる』という根本的な行為の過程を忘れてしまい、誤嚥するどころか食事を摂取できない患者さんもいます。

これまで寝たきり状態の患者さんの多くは、ベッド上で食事を摂取されてきました。摂食・嚥下の状態を言語療法士と連携し、主治医の許可を得られた患者さんは、当日の体調に合わせて、なるべく離床して食事を摂取していただいています。マンパワーが必要になり、時には患者さんの家族に協力を仰ぎながら、ディルームが『食卓』という環境により近くなるよう工夫してい

ます。

ただ目の前に供されるトレイの上の食物を、ひたすら介助されて食べるのではなく、人が集うなかで食事を囲む、口に物を入れて咀嚼し嚥下するという運動を、みんなで食べる楽しい食事という誰もがどこかで持っているような記憶とリンクさせます。体を起こしている時間や活動をする時間、ベッドに寝ている時間が規則的になれば、いつの間にか狂ってしまっていた昼夜の生活の習慣にメリハリがつきます。

嚥下しにくい姿勢で食事を摂取すれば、それだけ誤嚥のリスクを減らせます。病室に閉じ籠らせているばかりでなく、ディルームに集って食事を摂っていただくことは、『看護』としてもいろんな効果を期待できる行為です。



中学生の職場体験を受け入れました。

当院では11月に2日間ずつ、枚方市立長尾西、杉、第一中学校から計16名の生徒が職場体験に来ました。ユニフォームに身を包み、最初は緊張した様子でしたが、元気に2日間を過ごし、「楽しかった」「手術室はドラマで見るよりすごかった」「救急車に初めて乗ってドキドキした」などいきいきと感想を言っていました。また、「枚方公済病院の職員が楽しそうに働いていた」と言われ、担当した看護師も元気をもらいました。

野原病院長から病院で働くスタッフについての話があり、その後、生徒さんから「医者になるためにはどのように勉強したらよいですか？」など質問していました。将来、一人でも多く、医療の道に進んでくれることを願っています。

看護部長 畑 幸枝



伊原内科医院

☑ 開業のきっかけ

私は平成14年に京田辺市松井ヶ丘で父の開業した医院を継承し、開業しました。それ以前は滋賀医大の消化器内科学講座に所属し、内科ローテーション研修後、消化器病の研究や消化器内視鏡をはじめとする診療に携わってきました。開業後は、父の専門である東洋医学を勉強し、現代医学に取り入れながら、幅広く診療を行っています。また上部下部の内視鏡検査を含めた消化器病の専門診療も行っています。

☑ 毎日の診療に心がけていること

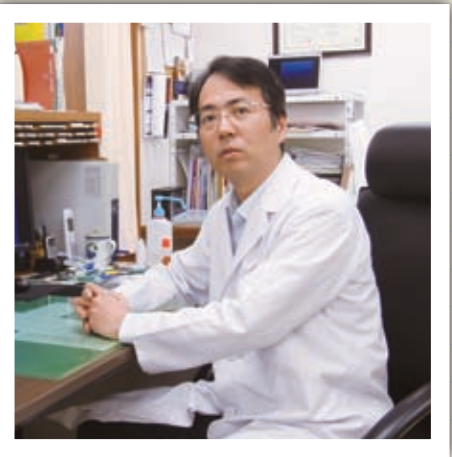
内科の診療は全人的医療であるべきと考えていますので、各科横断的な診療、介護を含めた在宅医療にも、常日頃診療で留意しているつもりです。また生活習慣病における予防医学的観点、東洋医学という未病の観点からも診療に取り組んでいます。

☑ 趣味

観葉植物、山登り、アウトドアですが、あまり時間がありません。大学時代はヨット部でした。

☑ 枚方公済病院について

特に循環器内科で非常にお世話になっています。どの先生も皆さま非常に親切丁寧ですし、紹介状のお返事も迅速かつ詳細です。私が判断に迷う心電図も電話で直接相談にのっていただいたこともありました。いつも適切なお指導をいただいております、本当に感謝しています。これからもよろしくお願ひ申し上げます。



伊原内科医院 院長 伊原 隆史先生

所在地：〒610-0353

京都府京田辺市松井ヶ丘4丁目3-17

☎0774-62-6448

診療科目：内科、循環器内科、消化器内科、漢方内科

連携医療機関紹介



このコーナーでは連携医の先生方をご紹介していきます。

大星クリニック

☑ 開業のきっかけ

当院は奈良県、三重県、大阪府に計6施設の内科クリニックをもつ医療法人康成会（奈良県河合町）を母体とし、平成17年に開院しました。

1階は一般内科外来の診療、2階は血液透析治療をしまして、約80名の透析患者さまが通院されています。当院は透析治療がメインと思われがちですが、内科外来にも数多くの患者さまが通院され、急性期疾患、生活習慣病の診療、健診、予防接種や上部消化管内視鏡検査なども行っています。

☑ 毎日の診療に心がけていること

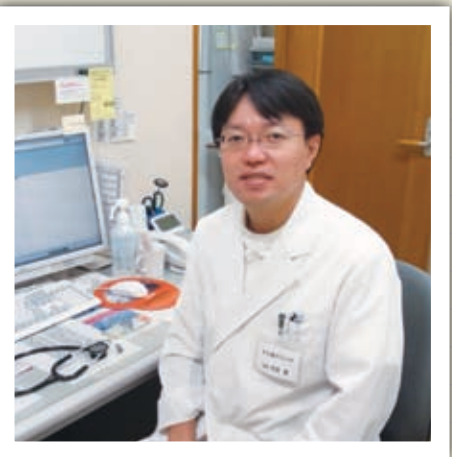
内科の慢性疾患、特に私の専門である慢性腎臓病はすっきり治ることはありませんので、患者さまの満足を得られにくいことが悩みの種です。その中でも患者さまの困っている症状、こちらに期待していることを的確に把握し、その問題を解決するためにできる限りの努力をするように心がけています。

☑ 趣味

F1レース観戦です。毎レースをTVで観戦し、日本グランプリ（鈴鹿サーキット）には毎年、現地に行っています。美しいマシンと技術の進歩が魅力です。

☑ 枚方公済病院について

いつも無理なお願ひにもかかわらず、診療・検査とも素早い対応をいただき、大変感謝しております。中でも、多くの急性心疾患の救急をお引き受けいただき、助けられる思いを何度もしております。大変頼りにしておりますので、これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



大星クリニック 院長 花田 繁先生

所在地：〒573-1196

大阪府枚方市中宮本町7-15

☎072-805-0055

診療科目：内科、腎臓内科（人工透析）

CEの つぶやき ⑨

臨床工学技士 木戸 悠人

近頃、だいぶ寒くなってきました。寒くなると循環器疾患も増え、病院はこれから忙しい時期がやってきます。

循環器で危険な病気のなかに死に至るような不整脈があります。この不整脈を治すためには電気ショックが有効です。

以前は病院でしか電気ショックができませんでしたが、現在はAEDという機械があり、どこでも誰でも電気ショックをできるようになりました。マラソン大会などでも利用され、芸能人がAEDによって一命を取り留めたこともあり、知名度が上がってきました。

AEDの使用方法は簡単で、中に入っているパッド（シール）を右胸と左脇腹に貼付けます。するとAEDが自動で電気ショックが必要か判断してくれます。電気ショックが必要であればショックボタンを押すと電気が流れて、不整脈を治してくれます。操作方法はすべて音声で案内されるので全く知識のない方でも使えるようになっています。しかし、注意しなければならない点もあります。電気ショック

をする際に患者さんに触っていると自分や周りの方にも電気が流れてしまいます。ショックボタンを押す前に誰も患者さんに触っていないことを確認して下さい。



AEDで不整脈を治すためにはできるだけ早く電気ショックをする必要があります。幅広く設置するほか、どこに設置されているのか知っておくと安心です。『AEDマップ』と検索すると簡単に見つけることができますので、一度調べてみてはいかがでしょうか。

また、AEDが近くになくても心臓マッサージをすれば助かる命がたくさんあります。大切な人を守るためにも心肺蘇生方法を学んでおかれると良いと思います。当院では心肺蘇生方法（BLS）の講習を行っておりますので、興味のある方はご連絡ください。小学生にも教えていますが、皆さんとても上手で、「倒れた人を助ける」と頼もしい声も聞かれます。

Information

● ひらこ健康倶楽部設立

— 平成26年11月1日、健康クラブを立ち上げました。 —

それは私が医療の本質を“予防と包括”という健康防衛にかけているからです。予防こそ、そして健康寿命を延長させてこそ病院が信頼されるものになると考えています。予防には一次予防と二次予防があります。初診、あるいは救急で救われた患者さんが再度病魔に襲われることなく元気で過ごすための二次予防、さらにもっと突き進んで病気にならないための先手必勝法こそ一次予防として期待されるものです。

人間ドックや健康診断で懸念を持たれた健康状態には、積極的に“未病”のうちに手を打てるものは打つ、そしてメタボと言われるような状態には積極果敢に挑むことができる専門医の受診を受けることでこの目的を果たすものと考えています。

病院長 野原 隆司



枚方公済病院 副院長
石井 賢二

今年、院内で開店したデイリーヤマザキは以前の売店より3倍くらい広いスペースがあり、さすがに何でもそろっているのではないかと思います。しかし、病院に特有の商品が欠けていたりするようで、以前のほうが良かったという患者の投書がありました。万人が満足するのは実に難しいです。

私はもともとコンビニで買い物をする習慣がなかったのですが、折角オープンしたコンビニが経営不振で撤退しては困るので内需拡大のために弁当を購入するように努

めています。電子マネーで支払いができるので、小銭を持たずにすむのが一番重宝します。弁当の味はいまひとつですが、温めてもらえるので温度設定に気を遣わなくて済みます。ただ、このての弁当の常で、漬物も温かくなるのは困ったものです。

さすがに24時間営業とはいかないようですが、休日も夜まで営業しているので便利です。営業縮小にならないように祈るばかりです。近隣のかたにも利用していただけると幸いです。

理念と基本方針

理念

地域の皆さんと国家公務員およびその家族に安心していただける医療を提供します。
患者さんの立場を尊重した合理的な医療を行ないます。
病院は安全で働きがいのある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励みます。

基本方針

枚方における中核病院として快適な療養環境と高度な医療を提供しつづけます。

● 年末年始の休診日のご案内

2014年も残すところ後わずかとなりました。連携医の先生方をはじめ、地域の医療機関のみなさまには日頃から多大なるご支援ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当院は12月27日(土)から2015年1月4日(日)まで休診とさせていただきます。

休診期間中でも急患につきましては通常通り、随時診療いたします。よろしく願いいたします。



編集後記

11月に入ると肌寒くなってきましたが、皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。前の号で「ヒポクラテスの木」を紹介しましたが、先日見に行きましたらすっかり紅葉し落葉も始まっていました。

世間ではエボラ出血熱の感染者が増えたとマスメディアが騒いでいますが、医療機関ではそろそろインフルエンザなどの感染症に対する対策をしているのではないのでしょうか。患者（児）はもちろん職員から予防に努めなければなりません。予防接種にはじまり手指衛生など、自らできることをすることが大切です。

今年も残り少なくなってきましたが、いろいろなことがありました。年末の多忙な時期ではありますが、やり残したこと、来年も引き続き行うことなど整理しなくてはなりません。健康にはくれぐれも気をつけましょう。

企画課 徳田 裕美子



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<http://kk-hirakoh.org/>